

## 6 「風土」分科会 「新ビジョンの基本方針～プロジェクト」

## 出席者一覧

(敬称略)

役割	所属団体	役職名	氏名
コーディネーター	学校法人 法政大学	教授	高柳 俊男
発言者	森町	町長	太田 康雄
発言者	飯田市	市長	牧野 光朗
発言者	伊那市	市長	白鳥 孝
発言者	松川町	町長	深津 徹
発言者	天龍村	村長	永嶺 誠一
発言者	蒲郡商工会議所	会頭	小池 高弘
発言者	田原市商工会	会長	河合 利則
発言者	袋井商工会議所	会頭	水谷 欣志
発言者	大須賀町商工会	会長	服部 政美
発言者	南信州交流の輪	会員	福沢 千恵子
発言者	三遠南信住民ネットワーク協議会	世話人	平川 雄一



## コーディネーター

## 法政大学 高柳教授

本日の「風土」分科会のコーディネーターを務めます高柳と申します。

最初に、なぜ法政大学の人間が、こんなところでこんなことをしているのか、自己紹介的なこととお話してから、本題に入り

たいと思います。

私自身がこの地域のことを研究しているのではなく、法政大学国際文化学部が学部として、南信州、飯田・下伊那地域で、特に留学生を中心に学生研修をしており、その担当者として、近年この地域に係わらせていただいています。法政大学は東京の中心部にありますので、法政大学へやってきた留学生はどうしても東京だけを見て「イコール日本」という認識を持って帰国してしまいます。東京とは違う場所で研修をして、日本を多面的に見せようというのが、この研修の主旨です。たまたま私とそのプログラムの立ち上げや引率、事前学習などを担当し、勉強しながら進めております。飯田・下伊那だけではなくて、なるべく三

遠南信地域を広く見たいと思い、多少時間を使って歩いています。この週末も、土曜日に佐久間の川合花の舞、日曜日は佐久間ダムの竜神祭りがあるということで、「よし、これも見てから会議に参加しよう」と思ったのですが、花の舞は雨でぐちゃぐちゃで靴がびしょ濡れになりましたし、竜神祭りは残念ながら中止となりました。なかなかうまくはいきませんが、自分自身の見聞も広めながら進めております。そんなことで、SENA の会議にも新ビジョンの策定に携わらせていただいております。

本年8月に出席した第1回新ビジョン策定委員会の場において、私は基本的な姿勢として二つ述べました。一つ目は、三遠南信地域の範囲を現時点の範囲が永遠のものと考えず、少し臨機応変に考えていきたいと申し上げました。それは、本年度から上伊那の4市町村が新たに構成員として加わっていますが、今後10年間に三遠南信地域やSENA も形が変わっていく可能性があり、それを柔軟に考えていきたいということです。

もう一つは、この三遠南信地域の中心は、浜松市、豊橋市、飯田市の3都市になるわけですが、同時に広大な中山間地域の現実から発想できるような係わり方をしたいと、その二点を申し上げました。

本日、これからの議論にそんな視点も入れて、短い時間ではありますが、忌憚のない意見交換ができれば幸いに思っております。

はじめに事務局から新ビジョンの「風土」の基本方針、あるいは推進方針の案を説明していただきます。

## 事務局

それでは、資料集の16ページをお開きください。

先ほど全体会で、新ビジョン策定に向け

た取り組みについて説明がありました。この分科会では、新ビジョンの基本方針「風土」の案について御説明いたします。

この基本方針3「塩の道文化創造圏の形成」とありますが、2020年に開催予定の東京オリンピック・パラリンピックに向けて国全体では外国人観光客の訪日数の増加などが見込まれる中で、この地域が数多く有している伝統芸能などの文化財、食文化や農林水産業、伝統工芸品など、特有の資源をどのように活用し、新たな価値づくりとして取り組み、保存活用を行うことで、塩の道文化創造圏の形成を目指したいとしています。

その下に、推進方針として二つ掲げています。

推進方針1「地域資源を活かした広域観光の推進」では、主要施策①「広域観光プロモーションの推進」、主要施策②「広域観光を推進するネットワークづくり」とし、それぞれの事業として、お手元にある資料に記載したものを想定しながら、取り組みの推進を図っていかうとしているものです。

次に、推進方針2は「地域資源の保存と継承」です。主要施策①では「塩の道文化の啓発と人材の確保・育成」、主要施策②「歴史・文化・自然資源の保全」を掲げています。資料に記載の事業等を想定しながら、現在検討が進められています。

資料集とは別に、A3の資料がございます。これは、これまでの新ビジョン策定委員会を中心とした議論で出た意見などを、今回参考の資料として用意したものです。ただいまご説明した基本方針などは、本日この場で決定するものではありませんが、皆様から、様々な視点で御意見をいただき、今後の検討に活かしていきたいとの趣旨ですので、よろしく願いいたします。

## コーディネーター

それでは、意見交換をしていきたいと思  
います。

順番ですが、推進方針1、推進方針2につ  
いて御意見を伺い、最後に「風土」全体に  
ついて御意見を頂戴する順で進めていき  
たいと思います。

まず、推進方針1「広域観光プロモー  
ションの推進」についてです。

それでは、本年度からこの SENA に加入  
されました伊那市の白鳥市長、どうぞよ  
ろしくお願いいたします。

## 伊那市 白鳥市長

観光は、単独市町村だけで取り組んでも  
広がりがないので、飯田下伊那地域、上伊  
那地域、そして木曾地域が連携をして、観  
光の広がりを持たせたいと思い、今、伊那  
市も含め上伊那地域の市町村で DMO の立ち  
上げを準備しております。

伊那谷には、中央アルプスと南アルプス  
があり、この山岳観光を十分に活用すべき  
と考えております。

現在、北アルプスには韓国からの登山客  
が非常に多くいます。南アルプスは国立公  
園とユネスコエコパークに認定されていま  
すので、北アルプスへの観光客が徐々に南  
に流れて来ることを想定した準備をしてい  
ます。それから、ジオパークに関しても、  
現在飯田市と一緒に展開をしておりますの  
で、こうした資源を上手に観光に結びつけ  
ていきたいと思います。

話は限りなくあるのですが、リニア中央  
新幹線と三遠南信自動車道それぞれの開通  
を想定していくという点においては、様々  
な展開があると思っております。

## コーディネーター

確かに最近、登山を行う中高年層の方が  
多いですし、それから韓国を初めとする外

国からの登山客も多いですね。そのなかで  
山岳観光、あるいは温泉などを位置づけて  
いくというお話がありました。

それでは、今度は、上伊那地域と接して  
いる下伊那郡松川町の深津町長よろしくお  
願いします。

## 松川町 深津町長

広域観光ということですが、それぞれの  
市町村でも観光に力を入れており、それぞ  
れの宝があります。

私どもの町は、果物の町です。果物狩り  
や、直営の温泉施設へ、年間で30万人ぐら  
い訪れていただいている地域で、これから  
さらに観光客を増やし、そして継続的に交  
流することで地域をつくり、産業を6次産  
業に結びつけていくことが大事だと思い、  
力を入れているところです。

ところで、飯田下伊那地域14市町村はそ  
れぞれ観光に取り組んでいるのですが、そ  
れらを点と点を結んで一つの連携とし、地  
域としてお客さんを引っ張るにはまだまだ  
力が足りないのではないかと感じていると  
ころです。観光が地域づくりや産業に非常  
に波及効果があり、地域の活性化に効果  
があるということで着地型あるいは滞在型  
観光を目指して力を入れているのですが、  
それぞれの市町村の取り組みである点と  
点を結んだ連携をどうしていくか、これ  
からの広域的な課題になるのではないかと  
思っています。

私どもの町も、昨年10月に DMO を立ち  
上げるための準備室を設けて、来年4月の  
設立を目指しているところです。なぜ DMO  
の設置を目指しているかということ、これ  
までも地域の交流人口を増やすために取  
り組んできたのですが、戦略的に物事を  
運んでいくことが欠けているのではない  
かと思いい、現在 DMO を立ち上げて  
民間感覚を取り入れていきたいとやっ  
っております。

それから、一つの例ですが、下伊那郡には非常に小さな町村がたくさんあり、松川町は下伊那郡の北部に位置しております。それで、北部5町村で、年に1回ですが、地域内を回って一泊して、それぞれの町村のいいところを訪ねて歩く取り組みを、一つのきっかけ、起爆剤になればいいと思い、取り組んでいます。

### コーディネーター

観光の場合でも、あるいは移住者の獲得などにおいても、どうしても自治体同士の競合、あるいは対象者を奪い合う面があると思います。協力することによって一泊の滞在が二泊になったり、地域が連携して広域観光をつくっていくためにも、例えば観光局を立ち上げたり、あるいは近隣の町村と一緒に取り組んでいくというお話が語られました。

近隣の市町村と一緒にあって、広域観光ルートをつくっていくという点では、次の蒲郡商工会議所の小池会頭からお話があるやに聞いておりますが、いかがでしょうか。

### 蒲郡商工会議所 小池会頭

蒲郡市は、豊橋市の隣にあって、東三河地域の一番西の端にある人口8万のまちですが、温泉地が四つあり、年間60万人程度の人が宿泊しています。

ラグーナテンボスができて300万人ぐらい集めるわけですが、それまで温泉に頼っている観光が中心でした。平成17年に観光交流立市宣言をいたしまして、観光という切り口で、オール市民でまちづくりをしようという観光ビジョン推進委員会ができました。それ以来、私も委員長として、いろいろな施策を行ってきました。

一つは、おもてなしコンシェルジュ検定です。当時はおもてなしやコンシェルジュ

という言葉もあまり盛んではありませんでした。現在はおよそ1,000名の検定を受けた方が、おもてなしコンシェルジュ倶楽部をつくって情報発信し、イベントのお手伝いをするものもできてまいりました。

もう一つは、「オンパク in 蒲郡」です。もともとの蒲郡の良さを知ってもらおうと、市民向けに行っていた観光交流ウィークを三河地域の一つのプラットフォームにしたいと考え、「オンパク in 蒲郡」、現在は「みかわ de オンパク」と名を変え、現在90ぐらいあるプログラムのうち、30以上は他市町村のプログラムです。蒲郡市は東三河地域の一員ですが、西三河地域にも接しており、現在、蒲郡市、岡崎市と西尾市が観光の組織を作り、スタンプラリーや「みかわ de オンパク」というプラットフォームに参加するようになりました。さらに本年は、三河地域ではありませんが、知多半島の地域にまで参加してもらい、愛知県の観光ルートとしてセントレアから三河地方へ観光客の誘客を図ろうとしています。愛知県には尾張地方と三河地方があって、三河地方は西三河地域と東三河地域があって、東三河地域は穂の国と呼ばれていて、東三河地域は三遠南信地域の経済圏の中の一つであるという見方をしていないと、それぞれの地域で一生懸命に取り組んで、広域になればなるほど、日帰り観光から一泊観光、一泊観光から二泊観光と増えていくものですから、対象が広がると思うのです。広域観光ルートづくりにこういったプラットフォームが上手く乗っかっていくといいなと思ってやっております。

### コーディネーター

オンパクの意味ですが、温泉博覧会ということでよろしいでしょうか。

## 蒲郡商工会議所 小池会頭

温泉博覧会ですが、どちらかというと、蒲郡は温泉地だからなのですが、名前を変えてもいいと思っています。もう着地型のプログラムが100個ぐらい集まったプラットフォームになっておりますが、実は、これを1年間通してやってほしいという話もあります。「オンパク in 蒲郡」から「みかわ de オンパク」に変更するときも「なぜ蒲郡のお金を使っているのにもかかわらず、蒲郡の名前を取り除いてしまうのか」と、蒲郡の人は散々言われましたが、僕からしてみたら、オンパクも取り去って、一つの市と市、町と町が、観光で連携するときに、協議会を設立しなくても、このプラットフォームに乗ればプログラムとして参画できるものを目指してやっています。

## コーディネーター

豊橋駅の観光案内所に、オンパクの結構厚いパンフレットがいつも置いてあるような気がします。常滑も含めると、三河湾全体で連携しているといった感じでしょうか。

では、続きまして、袋井商工会議所の水谷会頭、よろしくお願いたします

## 袋井商工会議所 水谷会頭

私の提案は、古くから三遠南信地域に伝承される花火文化という地域資源を生かした広域観光です。この地域は、花火文化発祥の地としまして、花火のふるさととも言えます。豊橋市の吉田神社の手筒花火が、花火の発祥という説もございます。またこの地域では、そういった伝統的な手筒花火から最新式のコンピューターで制御された打上げ花火まで、非常に多彩な花火行事、花火大会が開催されております。統計的に見ますと、打上げ花火の生産量では、長野県・静岡県・愛知県の3県は、常に上位5県

に入っており、打上げ花火の数も3県ともほぼ上位10県の中に入っております。そういったことを踏まえ、三遠南信地域それぞれの花火文化を地域資源として捉えて、広域連携で周遊観光を視野に入れた観光振興を推進してはいかがかという内容です。このことに関しては、私どもの活動の実績としまして2点ほど御紹介させていただきます。

一点目は、私の前任の豊田前会頭が、この分科会でも三遠南信花火サミットということ提唱しました。これにつきまして、私ども、本年2月21日に第1回三遠南信花火サミット in 袋井というものを開催させていただきました。内容につきましては、経済産業省製造産業局素材産業課長茂木正様に、「花火産業による地方創生と観光」というタイトルで御講演いただきました。こちらの素材産業課は、火薬の管理をされている御縁です。そして、パネルディスカッションとして、東三河、南信州、遠州、それぞれの伝統的な手筒花火等を行っていた皆様のパネリストとして御参画いただきまして、その地域の歴史、文化のことについて、語っていただきました。

二点目は、本年8月11日に開催しました、私どもの「ふくろい遠州の花火2017」におきまして、新居の手筒花火の皆様に来ていただきまして、花火を実際に御披露いただいたということと、この三遠南信地域のそれぞれの地域から売店を14店出店させていただきました。

そして、これらを踏まえたうえで、一つ御提案させていただきます。東京オリンピックまであと1,000日になりました。東京オリンピックは2020年7月24日から8月9日までの開催であり、まさに花火の一番のピークの時期です。三遠南信地域の花火文化の情報発信として、花火街道づくり、これは花火の技術が伝承した道の歴史、文化を

まとめまして、PR をしてはいかがでしょうか。そして、花火の行事、花火大会開催の情報の広域マップを作成し、来ていただいた方に、広域での観光につなげ、あるいは、花火工場の見学会なるものの開催、それからもう一つは、この地域で開催される花火大会と連携しまして、花火大会の共通観覧券の発行、あるいは、花火大会のスタンプラリーなどによる抽選プレゼントなどを企画してはいかがか、ということでございます。いずれにしましても、東京オリンピックは、ちょうど花火の一番いい時期の開催ですので、なんとか関連づけられないかと考えています。

### コーディネーター

確かに三遠南信地域は、花火が大変有名だと思います。私もこの仕事に携わってから、イベントごとにメールが送られてくるようなサービスにいくつか登録しているのですが、多く届く情報は花火です。ほんとに毎週いろいろなところで花火が打ち上げられており、あるいは自分たちで火薬から花火を作り、打ち上げるところもあるかと思えます。花火工場の見学や広域マップの作成、共通券の販売、スタンプラリーの実施等の具体的な御提案もしていただき、ありがとうございました。

では、続きまして、これまでは市町村と商工会議所の立場からのご発言でしたが、これから5番目に住民団体の代表である南信州交流の輪の福沢千恵子さん、お願いします。

### 南信州交流の輪 福沢氏

私共の団体は、飯田・下伊那地域の自然環境や伝統文化などの地域資源を学び、継承していくことを目的にして活動している団体です。私共の活動の一端をお聞きいただきながら、今回の場を持たしていただき

たいと思っています。

飯田・下伊那地域は、国の重要無形民俗文化財に指定されている坂部の冬祭や新野の雪祭など、伝統芸能の宝庫です。また地域色豊かな食文化が大切にされている地域でもあります。そういった中で、私たちは伝統芸能と食文化の融合を図り、2013年から南信州を代表する祈りの祭りとして伝統食・郷土食を取り入れていた「祭り街道弁当」、祭り弁に取り組んでおります。新春の五穀豊穰を祈願する、また夏にははやり病の退散、盆には祖先の供養、秋には五穀豊穰に感謝する、また冬には新しい生命の復活といういろいろなテーマにしなごらお弁当づくりに励んでいるところです。「神楽舞御膳」は、新しい命をいただく生命誕生を表した12月、1月に行われる遠山の霜月祭、坂部の冬祭をテーマにして作り上げた創作膳です。また、1年の豊作と健康を祈願し、1月14日に新野の雪祭が行われております。それから地元では、どんど焼き等が行われるわけですが、五穀豊穰を祈願した「はつはる御膳」を自分たちで創作しながら、今作り上げているところです。

これらのお膳には、私たちが考えた物語性のある新しい食文化をみんなで作って作り出そうと創作しており、地域にある竹の食器を使っております。それからお祭りに即しましたように、坂部の冬祭、霜月祭を表しましたお釜を意味する大きな器の中に御飯を盛りつけ、伝統食のごった煮等も含めて、お膳の中につけさせていただいております。それからのはつはる御膳ですが、新野の雪祭に幸法さんの冠の頭の上にお米が入っています。これが五穀米ですが、米・麦・稗・粟・大豆を五穀米として食の中に盛り込んでいます。また、どんど焼きのお餅、それから無病息災、七草粥等をこの御膳の中に配しながら作り上げています。

私たちが物語性のある食文化を作り出

すまでは、自分たちの地域を知らなければいけません。地域資源を知るための調査、研修を通じて、私共は学ぶ・体験する・交流する学習等をそのたびに開いております。祭りに供える食を調べ、飯田市美術博物館の先生にお願いして地域のいろいろなお祭りについてのお話をいただいております。それから、研修といたしましては、地元の料理講習家の方たちに講師をお願いし、調理実習等をする中で、自分たちの食文化を自分たちの言葉で語れる活動もしています。

私たちが作り上げているお弁当は、単なる御膳や弁当ではなく、地域の資源である祭りの意味を盛り込んだ、祭りを理解できる形で、つくる側である私たちが意味を知った上で作れるような弁当を、これからも開発していきたいと考えております。

昨年、長野県のアンテナショップである銀座 NAGANO で祭り街道フェアを行いました。それから、祭り街道弁当のイベント等には、竹の器を活用しており、これは山間地で竹が余っているので、この竹を活用するために、天龍村坂部地区の方たちの協力をいただきながらつくった竹製品でございます。

こういった地域の資源、活力を利用しながら、これからも地域の中でお弁当づくりに励んでいきたいと思っておりますし、また私たちだけでは手の足りない分、今地域で地域おこし協力隊の方たちが力強く活動しておりますので、そういう方たちとも連携しながら、私たち地域なりの発信をしていけたらいいと考えております。

#### コーディネーター

この地域には、おいしいものがいろいろありますが、単においしいものを食べるだけではなく、それに伝統芸能などの文化等を絡めて、やはり物語性のあるものをつくっていききたいということだったと思います。

あるいはそれによって、邪魔者扱いにされる竹の利活用も図ることができ、あるいは地域おこし協力隊との協力関係などいろいろ広がっていく取り組みだと思って聞きました。

以上、5名の方からの御発言を聞いていて、連携が大事であると非常に強く感じました。素材は、山岳の自然、温泉、あるいは果物、お祭り、花火などいい素材が様々ありますので、それらをうまく広域でつなげていき、一地域だけではなく、三遠南信地域全体で共通して取り組むことの重要性が、多くの方から語られたと思います。

ここまでの議論に補足し、これだけ言っておきたいということはいかがでしょうか。

#### 伊那市 白鳥市長

先ほど花火に関するネットワークの話がありましたが、伝統芸能も、長野県内であれば、坂部の霜月まつりや新野の雪祭、新野の盆踊り、遠山の霜月祭り、泰阜村の樽木（くれき）踊りがあったり、和合の念仏踊りがあったり、大鹿歌舞伎や、伊那市の中尾歌舞伎があり、あと古田人形や、今田人形など、山ほどあります。

このような地域は非常に珍しいので、インバウンドも含めた広域観光としては大変大きな可能性があるのではないのかと考えています。

#### コーディネーター

私も SENA には本年からの参加で、これまでの議論を十分承知しているわけではありませんが、記録などを読みますと、そういった個々の要素をつなげて日本遺産の申請に向けて取り組んでいくことが、これまでの議論の蓄積でもあるかと思っています。

それでは、推進方針1について、ここで一区切りにしたいと思います。

では、続きまして、推進方針2である

「地域資源の保存と継承」について、天龍村の永嶺村長、よろしく申し上げます。

## 天龍村 永嶺村長

私たちの村は、長野県の最南端にございます。天竜川に沿っていきますと、長野県と愛知県と静岡県との三県境にちょうど位置している村です。非常に人口が少なく、小規模な村で、さらに高齢化率も長野県で一番、全国でも二番目に高い村です。

推進方針2にある地域資源の保存と継承のうち、私からは特に主要施策1「塩の道文化の啓発と人材の確保・育成」に関しまして、具体的な提案をさせていただければありがたいと思っております。

先ほど、南信州交流の輪の福沢さんのお話や、伊那市の白鳥市長のお話にもありましたが、天龍村には、国の重要無形民俗文化財に指定されている「天龍村の霜月神楽」という祭りがございます。毎年1月3日から5日にかけて、村内三つの神社でそれぞれ一昼夜をかけて、厳粛に執り行われているお祭りです。

また、私共の霜月神楽と同様に、飯田市の上村・南信濃地区にあります遠山の霜月祭、阿南町の新野の雪祭り、そして同じく阿南町の和合の念仏踊りなど、国の重要無形民俗文化財に指定されているお祭りが、本当にこの地域には数多くあるわけです。

こうしたお祭りは、各地域でそれぞれ大切に守り、受け継がれているわけですが、現在一番大きな問題は、担い手不足です。これは非常に深刻な問題になっており、集落内に継承する若い人たちがいないために、高齢となった皆さんが一生懸命、必死になって、これを伝承しているのが現状です。それぞれ知恵を出し合いながら、小中学生や、あるいは高校生などの後継者の育成に務めていただき、あるいは企業や、住民の皆さんの御理解を得るためのセミナーやシ

ンポジウムを開催し、保存伝承に御尽力、また御苦労されているのが現状です。

その時期になると、地元出身者がお祭りのためだけに帰省して来ます。また、近隣の市町村同士、さきほど申し上げたように似たお祭りがありますので、お互いの近隣同士で助け合うことで、伝統を守り続けています。そもそも地元の出身者という若者自体も少なくなってきており、やっぱりお祭りを守っていくには担い手がどうしても必要だということで、私共の村では地域おこし協力隊に御協力をいただいて、一緒にお祭りを守っていただきたいと取り組んでいるところです。この地域おこし協力隊には、そのお祭りの担い手としてだけでなく、彼らが発信役となり、都会から興味のある人たちを呼び入れていただき、このお祭りに興味を持ってもらう活動も彼らにやっています。

それから、天龍村の霜月神楽につきましては、踊りの所作などを記録したものが全くありませんでした。そこで、いわゆる先人の皆様から身振り手振りで教えていただいた、口頭伝承で受け継がれてきたものを、その地域の指南役がいなくなってしまうことでお祭り自体が継続できなくなってしまうことのないように、平成25年度に天龍村霜月神楽等資産化実行委員会を設立し、平成26年度と平成27年度の2か年にわたり資料を集め、そして最終的には資料集とDVDを作り、そうした貴重な資源や伝統を後世に残すための取り組みを行いました。これと同様に、阿南町の新野の雪祭りも、平成28年度に資料集とDVDが完成しました。

また長野県でも、特に南信州地域振興局が中心となって、平成27年度から南信州広域連合と連携し、南信州民俗芸能継承推進協議会を新たに設立し、保存伝承に力を入れているところです。

このように、天龍村だけでなく、各地の



無形民俗文化財、この三遠南信地域の貴重な資源というか宝、さらに誇りでもあると私は思いますので、当地域特有の伝統文化として、是非後世に伝えていく、そして、今一番困っている担い手不足、人材の育成に力を入れていただき、もっともっと地域内外に広めていくために、お互いの情報を共有しながら、一層連携を深めていかなければならないと考えています。

ぜひ、新しいビジョンの中では、こうした伝統芸能の保存伝承の観点も組み入れていただければありがたいと思います。

### コーディネーター

天龍村は比較的小さな村ですが、本当に貴重な芸能がたくさんある一方で、高齢化による担い手の育成が課題になっているとお話でした。

実は、法政大学では飯田・下伊那での研修を遂行するために、ちょっとした文庫を設けているのですが、天龍村の祭りを記録した冊子とDVDは入れさせていただいております。

あるいは、いくつかあるお祭りの中でも大河内池大神社の例祭には、上伊那の田楽座さんが近年助っ人として入っていて、上伊那と下伊那の交流も随分進んでいるように聞いております。

では、次に、大須賀町商工会の服部会長からお話をお願いしたいと思います。

### 大須賀町商工会 服部会長

大須賀町という地名は、平成17年に掛川市と合併しましたが、商工会の名称としてまだ残っているものです。

地域資源の保存と継承ということで、大須賀地域では、横須賀の城跡・城址と三熊野神社が歴史的な地域資源です。この横須賀城跡は、言い伝えですが、徳川家康が武田家との合戦の際にとられた高天神城を奪回

する中で、大須賀康高公に築城させたといわれています。

また、三熊野神社は1,300年前から続く神社です。その中で、横須賀高等学校の郷土芸能部が、この三熊野神社の三社囃子と三熊野神社大祭の中で使われているお囃子を大切に継承しております。高校生以外にも、地域文化を保存する団体として遠州横須賀倶楽部があります。こちらの団体は、城下町の風情を残す町並みを生かした「ちっちゃな文化展」を本年度までに19回開催し、今、非常に地域に根づいていたものとなっています。

この大須賀地域につきましては、個人はもとより町全体が、1年を通してお祭りに始まり、お祭りに終わるという風土です。

この三熊野神社大祭で曳かれる祢里は、これは二輪車ですが、江戸時代の江戸天下祭から大須賀町に持ち込まれて以来継承されており、この図柄は、江戸中期の天下祭を描きました神田明神祭礼の絵巻にも載っている形と同じということもあり、最近二度ばかり、神田祭に招待をされ、銀座日本橋で2台の祢里を曳きました。1万1,000人、2,000人の地域から、約1,000人の人間が、そちらに応援部隊として参加し、非常に盛り上がりっております。

また横須賀高等学校の芸能部は、全国高等学校総合文化祭（総文祭）の郷土芸能部門において、三社囃子で非常に優秀な成績も修め、認められております。

お祭り文化が非常に発達しておりますが、あともう1点は、遠州横須賀凧というものもあります。これは、徳川軍と武田軍の合戦の際の通信に使われたとの言い伝えがあります。それを今、8種類ほどの形の凧を2月にあげております。これもいろいろな地域の愛好家と一緒にやっているように、大須賀町につきましては、昔からの文化の保存と継承に取り組んでいるところです。

## コーディネーター

高校などでも郷土芸能部などをつくって、若者が加わって伝承しようとしているとのことでした。今、総文祭の話がありましたけど、総文祭は来年度長野県で行われるということで、多分本日いらっしやっている長野の方は非常に関心を持っているかと思えます。

法政大学の本年度の研修でも、長野県南部にある阿南高等学校の郷土芸能同好会の皆さんに新野の雪祭りを披露していただきました。

では、この推進方針2の最後になりますが、三遠南信住民ネットワーク協議会から世話人の平川さんをお願いします。

## 三遠南信住民ネットワーク協議会 平川氏

まず私の肩書きになっている三遠南信住民ネットワーク協議会の紹介をさせていただきます。当協議会は、三遠南信地域において地域づくり活動を行っている NPO や住民団体を会員とした一つの組織として2012年5月に発足し、5年経ちました。この場は、私は、東三河地域の代表として参加しています。本日午前中に住民団体が一堂に会する住民セッションを行い、分科会での発言内容や新連携ビジョンの策定状況について、意見交換をしてみました。その中で出た意見と、それまでに考えてきた住民団体としての意見を、この場で少し述べさせていただきたいと思えます。

昨年度、国土交通省と連携して、「三遠南信祭街道いざないマップ」をつくりました。これは、三遠南信地域の祭りや民俗芸能、その沿線の地域資源や魅力を紹介しようとしたもので、「遠州・奥三河版」としてつくり、配布中です。配布は、三遠南信地域内の道の駅や高速道路等のサービスエリアやパーキングエリアをはじめ、三遠南信に関連したイベントなどでも配布してい

ます。様々な方にこのマップを手にとってもらい、活用されることが狙いで、三遠南信地域の伝統芸能などを紹介する試みの一つでもあります。現在は、東三河版と南信州版を制作する準備をしているところです。

住民ネットワーク協議会では、祭りや民俗芸能を地域資源の一つとして捉えることが重要であることを共通の認識としています。新ビジョン案の「主要施策②」の「想定される事業」として、この祭り街道マップを通じた取り組みは、まさに情報発信の一例といえると思います。多くの人たちに、民俗芸能を含めた地域資源に興味や関心を持ってもらい、また様々な角度から三遠南信の取り組みに協力と理解を得てもらうためにも、新連携ビジョンとも結びつけてもらえればと思います。

それから、「基本方針3」（風土）全体に関わることとして、白鳥伊那市長からもお話が出ました「日本ジオパーク」の取り組みも重要な事業の一つではないでしょうか。多くの方がご存じのように、三遠南信地域は、中央構造線の断層帯が通っており、たくさんのジオサイト（景観・地形・地質・歴史文化などで構成される見どころ）が存在します。現在、南信州地域の一部が日本ジオパークに認定されています。東三河地域はジオパーク構想推進準備会が設置されるなど、ジオパーク認定に向けた動きが進められています。遠州地域でも何らかの動きを示すことで、三遠南信地域でのジオパーク連携に向けた取り組みとすることもできそうで、広域観光の可能性も見えてくるのではないかと思います。これもまた新連携ビジョンの事業として提案させていただきます。

## コーディネーター

特に、最後のジオパークの件は、白鳥伊那市長のお話とつながる話でおもしろいと

思います。

私が昨日滞在していた佐久間にも道路の脇のところどころに、そこが中央構造線の破砕帯であることを示す看板がありました。大鹿村や伊那市長谷地区にも、安康露頭など露頭が数カ所あります。

以上、お三方からお話を伺っていて、共通の課題がいろいろ浮かび上がってきたように思います。

例えば伝統文化では、それを保持してきた方が高齢になり、いかに若い人に継承していくのかという課題ですが、例えば、高校に郷土芸能部をつくったり、地域おこし協力隊の人に担い手として入ってもらったり、また内外に向けて宣伝することがあります。また、伝統芸能の保存継承のために、今のうちに文書や映像で記録を残すことに取り組んでいく必要がありますし、また、すでに取り組まれているとも思います。

遠州地域の図書館に行きますと、各地のひよんどり、神楽、田楽のDVDが所蔵されていたりもします。そうしたものを三遠南信地域の県境を越えて共有化し、体験なども共有化していくことが必要だと思いました。

もし、推進方針2に関連し、これだけは言い忘れたことがございましたら、どうぞ。

### 松川町 深津町長

様々な伝統文化や芸能を継承するために、それぞれの地域で大切に一生懸命やっているとお話がありましたが、もう一つの大きな広域的な課題として、伝統文化や芸能をいかに知ってもらう、見てもらう、体験してもらう、触れ合ってもらおうかという大きなテーマがある気がします。

三遠南信地域にある花火、お祭り、山、自然などをどうやって発信し、多くの人たちに知ってもらい、体験してもらい、滞在してもらおうかが課題ではないかと思ってお

ります。



### コーディネーター

広域的に文化的なものを発信し、多くの人に知ってもらうことも、新ビジョン策定委員会において議論したいと思います。

では、推進方針1及び2を踏まえ、最後に基本方針について御議論をいただきたいと思います。

では、まず森町の太田町長、よろしくお願ひします。

### 森町 太田町長

私どもの森町は、遠州の小京都と名乗らせていただいております。静岡県内で小京都を名乗っているのは森町だけであり、おそらく三遠南信地域の39市町村のうちでも森町だけではないかと思ひます。

なぜ、遠州の小京都と名乗っているかにつきましても、平成24年に正式に全国京都会議に加盟をさせていただきました。その加盟の条件が三つあるわけですが、そのうちの一つの要素を御紹介しますと、森町にも舞楽が伝えられております。小國神社、天宮神社、山名神社という町内にある三つの神社に伝わっている舞楽が森町の三大舞楽ということで、国の重要無形民俗文化財に指定をされております。

神楽と舞楽は、少しその由来が異なるかもしれませんが、いずれにしても連綿と守り伝えられてきたものでして、いずれも京都から伝わったものですが、地方だからこ

そ昔の形のままで残っているということが、最近の研究でもいわれています。

基本方針の「塩の道文化創造圏の形成」とありますが、森町を含め、それぞれの市町村が地域資源を十分にお持ちであり、またこれまでそれを守り伝えてこられて、更に発掘し磨きをかけて、発信されていらっしゃると思います。今、伺いまして、継承や発信の点には課題があります。

また、伝統芸能と一口で言いましても神楽や舞楽があり、また、温泉、花火またはジオパークなど様々な地域資源があると思います。それらをもう一度新たな価値つくりのために、新たな視点でジャンルごと組み合わせる必要があると思います。

SENA のウェブサイトで、自然系・人文系・産業系・交通系とカテゴリに分けて、いろいろな情報を検索できるデータベースがありますので、これらを活用しながら、それぞれのジャンルで地域資源を組み合わせ、新たな価値をつくっていく事も、一つの手法ではないかと考えます。

### コーディネーター

確かに大事な要素がたくさんありますので、それをうまく組み合わせ、新たな価値づくりする際に、SENA のウェブサイトにある地域資源データベースなどをもっと活用していければとのお話がありました。

森町は、私は一度しか行ったことがないのですが、伝統的な建物などもいろいろあって、確かに小京都の雰囲気がありました。ただ考えてみたら、この地域には、どちらかという無形の文化財が多くて、例えば重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）は地域内にはありません。ないものねだりかもしれませんが、そういったものもあつたらいいのかなと思いました。

では、続きまして、田原市商工会の河合会長お願いいたします。

### 田原市商工会 河合会長

基本方針において、「塩の道文化創造圏」とのテーマが上がっていきまして、その資料を読ませていただく中で、なかなか難しい気がいたしました。

戦国時代以前に、海から離れた地域へ塩を運ぶために必然的に塩の道が生まれてきたとは思いますが、しかし、私が知らないだけかもしれませんが、三遠南信地域内にどれほどのものが塩の道という形の文化遺産として残っているか、また塩の道という切り口で広域観光とどのように結びつけていくのかが、イメージできません。

例えば、私どもは渥美半島にある田原市で、農業の盛んな地域なのですが、ここは豊川上流にあるダムなどのおかげで現在の農業があります。豊川用水が来る前までは、ほとんど芋と麦、大根の生産ぐらいしかなく、農業の産地としては目立つところではなかったのです。しかしながら、豊川用水ができて、日本でも有数の農業の産地となった立場から考えると、「塩」よりも、「水と農」の切り口の方が、かえって想像しやすいと思います。

そして、広域に関する基本方針と、広域観光は接点があると思いますが、田原市はもともと海辺の町で、強い風を生かした凧や伝統的な渥美たくあん、それから、伊勢から人が流れてきて、昔は渥美半島の先端に高貴な身分の文化人が配流され、漁師の中で歌が残されていることがたくさんあるのです。同じことが、この三遠南信地域にあると考えますと、塩の道が悪いわけではなく、イメージとしてはいいと思うのですが、具体的にどういう形で塩をテーマに広域の観光や文化をつなげていくのかイメージが湧かなかつたものですから、私はかえって水に限定したほうが、地域をつなぎやすいと思います。

## コーディネーター

最後になって、かなり本質的な話が出てきました。お手元に、事前に意見を取りまとめた資料があります。その資料の風土分科会に関連する部分の最初に、ある自治体から「塩の道は南北軸の起源であるが、地域内全ての取り組みが塩の道に関連するとは限らないため、基本方針の表現としてはもう少し幅広に掲げたほうがよい」との意見がありまして、私も同感です。

もともと、天竜川あるいは豊川流域圏との言い方もしていたと思うのですが、この基本方針3では、塩の道とかなり限定しています。では、塩の道とはどこなのかという学術的な議論もあるでしょうし、あるいは塩の道は日本全国のいろいろな地域にあると思いますので、私自身もちょっとひっかかっているところです。

では、いよいよ最後になりますが、飯田市の牧野市長、よろしく願いいたします。

## 飯田市 牧野市長

「塩の道文化創造圏」という言い方は、違和感がある方が多いかもしれません。もう少し広く捉えて、むしろ「三遠南信流域文化圏」と言い切った方がわかりやすいかもしれません。これを新しいビジョンにどのように盛り込むか、これからの検討課題として考えていってもらえればと思います。

本日の議論を聞いて、やはり伝統文化芸能がこの地域は非常に盛んで、そういったものはこの地域として誇り得るもので、また情報を発信し、観光にも十分活用ができるのではないかと、前向きに捉えられていることが多かったかと思います。

一方で、担い手不足の話も出ておりました。実際、例えば、飯田市の遠山郷の霜月祭でございますが、10年ほど前は、12月1日から始まって、大体冬至のころまで、どこかの神社で霜月祭が行われていました。

霜月祭は、季節の巡りと絡んでいるわけでもあり、本来は冬至のお祭りといってもいいくらいの意味合いもあると思います。今では冬至の日まで祭りが続けられるかといったら、実は15日で終わりです。それ以上は続けられないといった状況になっています。

これはもう、人口減少、少子化、高齢化が進んできていて、伝統文化芸能の保存継承は、本当に待ってられない、喫緊の課題だと感じています。

当然、担い手確保の問題もありますし、保存をするための資金の確保も考えていかなければいけません。もう一つ、本日はあまりはっきりと言及されなかったかもしれませんが、伝統文化芸能の本質的な価値を、どういった形で保存継承していくかも、合わせて考えていく必要があると思っています。

私は、学術的な分野にまで及ぶような議論には行政が積極的に関与しなければならないと思うのですが、南信州広域連合においては、その第一弾として平成27年から28年の2年間に渡りまして、新野の雪祭りを中心にその実態調査、聴き取り調査、それから映像記録を行いました。この新野の雪祭りの記録映像は、DVD化されて、市販もされていますが、これには飯田市美術博物館が中心的な役割も果たしています。こういった実際の伝統文化の記録という分野におきましては、学術的な意味も含めて、行政の果たす役割が非常に大きくなります。それも、おそらく単独の市町村だけではなかなか難しい課題だと捉えていますので、そういったことができるリソースを有するところと協力して取り組み、これを三遠南信地域全体にどのように広めていくかが課題だと思います。阿南町の雪祭りの学術的な調査報告を行うことができたのは、南信州広域連合という事業体があったためでは

ないかと思っけていまして、これを三遠南信地域全体に波及させるためには、行政間での議論がもう少し必要だと思います。ちなみに、現在、第二弾の調査を進めておりまして、平成29年度、30年度の2年間で、清内路の花火文化に関する調査に、取り組んでいるところです。

もう一点、こういった伝統文化芸能については、観光面での活用は非常に重要ですが、毎年霜月祭に行つて思うことは、観光客がやつて来ないところではもっと来てほしいという考え方を持つところがある一方で、観光客がこれ以上やつてきたら祭りの存続、維持が困難と考えるところもあります。見物にやつてきてくれる人がいることはいいのですが、その地域に残る伝統芸能の保存継承のためにお金を落としてくれる仕組みにはなつていません。これは伝統文化芸能が残る地域では全国的によくある話で、地元の皆さんがお金を出し合つて保存しているのだが、観光でやつてくる皆さんは、それにただ乗りしているという状況がどうしても起こりがちで、そうならないようにどうしていくかを考えていくことが重要であり、是非こうした伝統文化芸能の保存を三遠南信全体でやつていければと思つています。

なお、日本遺産の取り組みは、この「風土」分科会でずっとやつてきているのですが、現在の文化庁の日本遺産の登録方針は、高柳先生がおっしゃつたとおり、有形の文化財が中心です。三遠南信地域において不利であると思うのは、この地域は無形民俗文化財が非常に盛んなものですから、この地域を日本遺産に登録するためには、どういった形で無形のものと同有形のものを組み合わせるやつていくかが課題だと思つています。知恵を絞りながら果敢にチャレンジしているところです。

## コーディネーター

飯田市長には、伝統芸能などの本質的な価値、学術的な研究に行政として、特に南信州広域連合としてどう係わつていくのかということも含めて、行政の立場からおまとめいただいたというふうに思っています。

これまでの議論に追加して御意見はございませんか。

## 蒲郡商工会議所 小池会頭

分科会の議論を伺いながら、この三遠南信地域の風土とは何だろうか、分科会に参加しながらいつも思っています。例えば、ブルゴーニュのワインを見たとき、ニューサンジョルジュのワインを飲んだら、その風景が臉に浮かぶとある解説者が言つていましたが、要するに三遠南信地域のお祭りなどを訪れた人が、この地域の風土をどういうふうに感じられるのかと考えることが、とても大切だと思います。それは、言葉やいろいろなもので説明して感じられるものではないと思うのです。

だから、よくワインだとテロワールといいますが、その土壌の特徴や気候などがワインの特徴として出てくるように、一生懸命、ワインづくりをしています。三遠南信地域の風土をブランド化するためには、お祭り等からどういうふうに吸い上げていくかを真剣に考えなければならないし、それをやるのが誰なのかと主体づくりをしっかりとやらないと難しいと思つています。

ぜひ「風土」の分科会なので、そういったテロワール、地域のもので思い浮かんでくるようなことを検討したらどうでしょうか。世界中にはいろんな観光地があつて、受け入れる側は自分たちが一番だと思つていますが、やつて来る人たちはいろいろと比較し、順位付けし、選択します。だから、この三遠南信地域がどんな地域として、どの辺の観光地とどういった特徴で競うのか

もきちんと整理しなければ、自己満足に終わってしまう感じがします。誰かがしっかり中心になってその整理を進めて行って、三遠南信地域をきちんとブランド化することが必要です。蒲郡が一番困っているのは、例えば三河でオンパクやると、様々なプログラムが100程度出てきます。しかしながら、このプログラム数では「三河 de オンパク」というプラットフォームをブランド化することは、非常に難しいのです。それでも、プラットフォームになり得ると思い、一生懸命やっています。

だから、三遠南信地域の風土のブランド化を推進する組織や、中心になる人が必要だと思います。

#### **コーディネーター**

貴重な御指摘として伺っておきたいと思えます。

皆様から非常に貴重な御意見をいただきまして、おかげさまで無事に終わることができました。

この後、報告会があります。短い時間であるため、とても言い尽くせないと思いますが、整理した形で報告させていただきまします。その取りまとめは、事務局並びに私に御一任いただけたら幸いです。

これをもって閉会いたします。

